

第3章 伊賀市の現状

3-1 着眼点とまとめ

本章では、伊賀市の人口や学校教育、観光等の本市の現状を整理し、人々の移動に関連する動向を把握します。

表 3.1 伊賀市の現状のまとめ

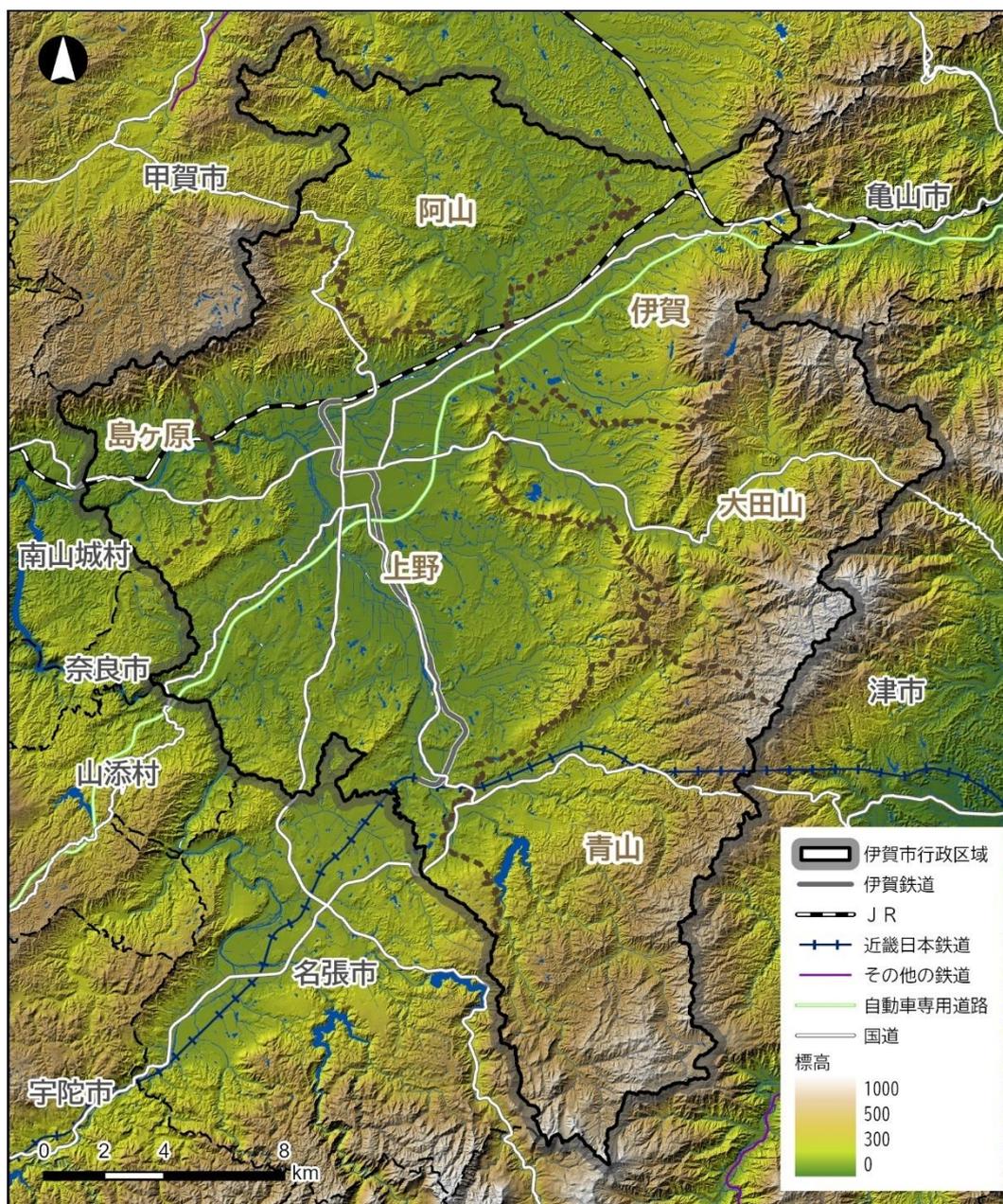
地理的概況	<ul style="list-style-type: none"> 滋賀県・京都府・奈良県と接しており、名張市とは地理的に連絡している 中京圏、近畿圏の2大都市圏の中間に位置する 中心市街地を持つ上野地域、JR関西本線の駅を持つ島ヶ原地区、いがまち地区、近畿鉄道の駅を持つ青山地区、鉄道駅を持たない阿山地区、大山田地区の6地区からなる多核型の都市である。
人口	<ul style="list-style-type: none"> 2000（平成12）年をピークに減少が続き、今後もさらに人口減少は進むことが見込まれている 少子高齢化傾向が、今後も続く 上野地区の市街地や住宅団地で高い人口密度だが、低密度の居住地も面的に分布している 郊外部で高い高齢化率 社会減の傾向が続く、特に10代後半での転出が顕著 死亡数増加に対し、出生数は減少しており、自然減数が拡大傾向 昼間人口がわずかに夜間人口を上回る
学校教育	<ul style="list-style-type: none"> 小中高等学校で児童・生徒数の減少が続く
施設分布	<ul style="list-style-type: none"> 地区の支所は各地区の中心部に立地し、公共施設や子育て支援施設がその周辺に立地 市の中心市街地には医療施設、通所リハビリテーション施設、商業施設などが集積
産業動向	<ul style="list-style-type: none"> 事業所数、従業者数が減少傾向 従業員は上野地区の中心市街地、ゆめが丘地域、名阪国道沿線に分布
通勤・通学流動	<ul style="list-style-type: none"> 流出口より、流入人口が多く、生産年齢人口の減少により、流出人口は減少 通勤・通学ともに名張市との流動が多い 県外との流動は、通勤では奈良県からの流入、通学では大阪府への流出数が多い 通勤・通学移動手段は、7割以上が自動車を利用
観光動向	<ul style="list-style-type: none"> 観光入込客数は新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少してから回復傾向にはあるが、2023（令和5）年時点で、2018（平成30）年比20%の減少
自動車交通	<ul style="list-style-type: none"> 自動車保有率が高い 市内の運転免許返納者のほとんどが65歳以上の高齢者で、年間約300人が返納している。 交通事故件数が減少していない

3-2 地理的概況

伊賀市は、三重県の北西部に位置しており、北は滋賀県、西は京都府、奈良県と接し、近畿圏、中部圏の2大都市圏の中間に位置しています。

北東部を山脈、北西部を台地、南東部を山地、南西部を高原に囲まれた盆地となっています。市内は低地・台地は少なく、丘陵地が多くなっていますが、名張市とは峠を越えることなく繋がっています。なお、水系は大阪湾に流れ込む淀川の源流域であり、近畿圏域の水源地となっています。

また、伊賀市は、中心市街地を持つ上野地域、J R関西本線の駅を持つ島ヶ原地区、いがまち地区、近畿鉄道の駅を持つ青山地区、鉄道駅を持たない阿山地区、大山田地区の6地区からなる多核型の都市です。



資料：基盤地図情報 数値標高モデル

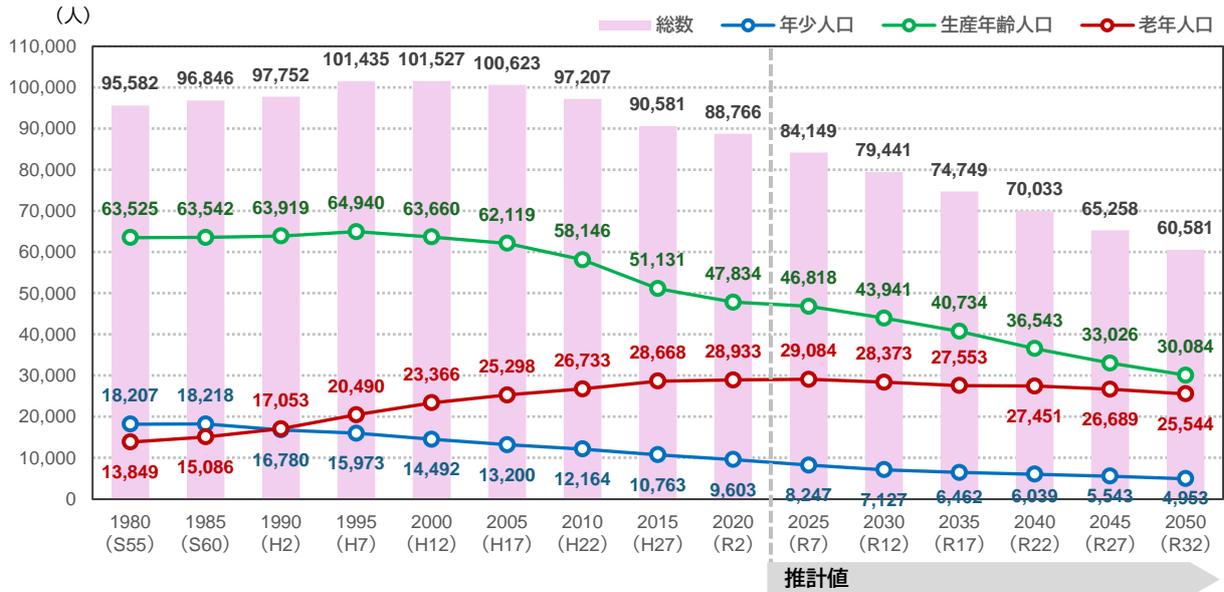
図 3-1 伊賀市の標高

3-3 人口

(1) 人口の推移

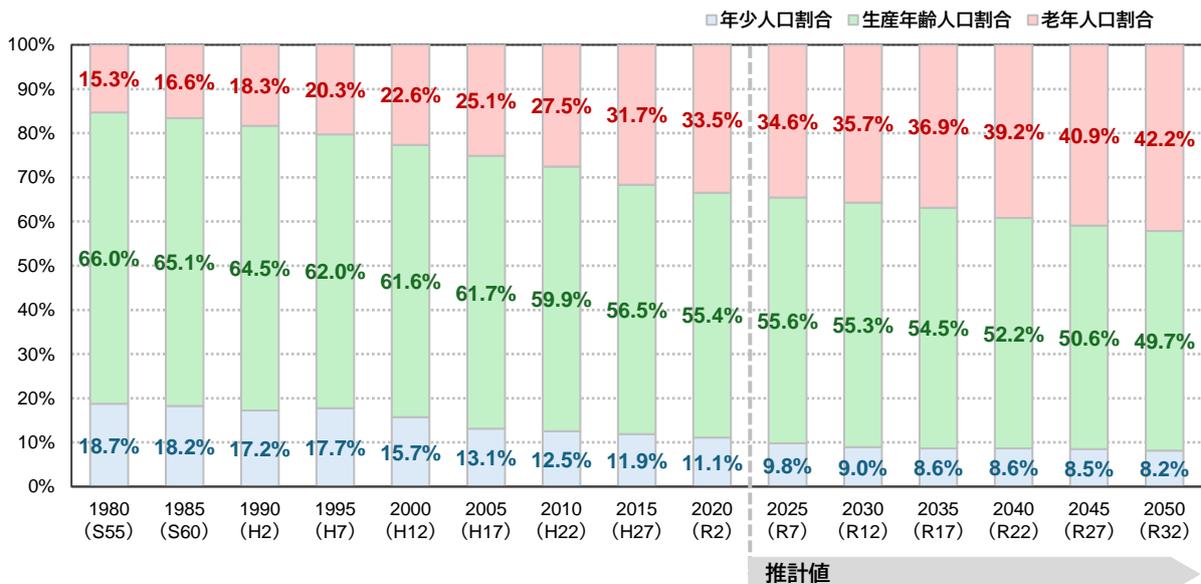
伊賀市の人口は2000（平成12）年の101,257人をピークに減少し、2020（令和2）年には88,766人と、2000（平成12）年と比較して、12.6%減少しています。今後もさらに減少が進み、2030（令和12）年までに8万人を下回ることが見込まれています。

3区分別の人口は、年少人口、生産年齢人口は減少を続け、老年人口についても、2020（令和7）年をピークに減少に転じると推計されています。また、高齢化率は2020（令和2）年時点で、33.5%となっており、2045（令和27）年には40%を超えると推計されています。



資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口」

図 3-2 人口の推移



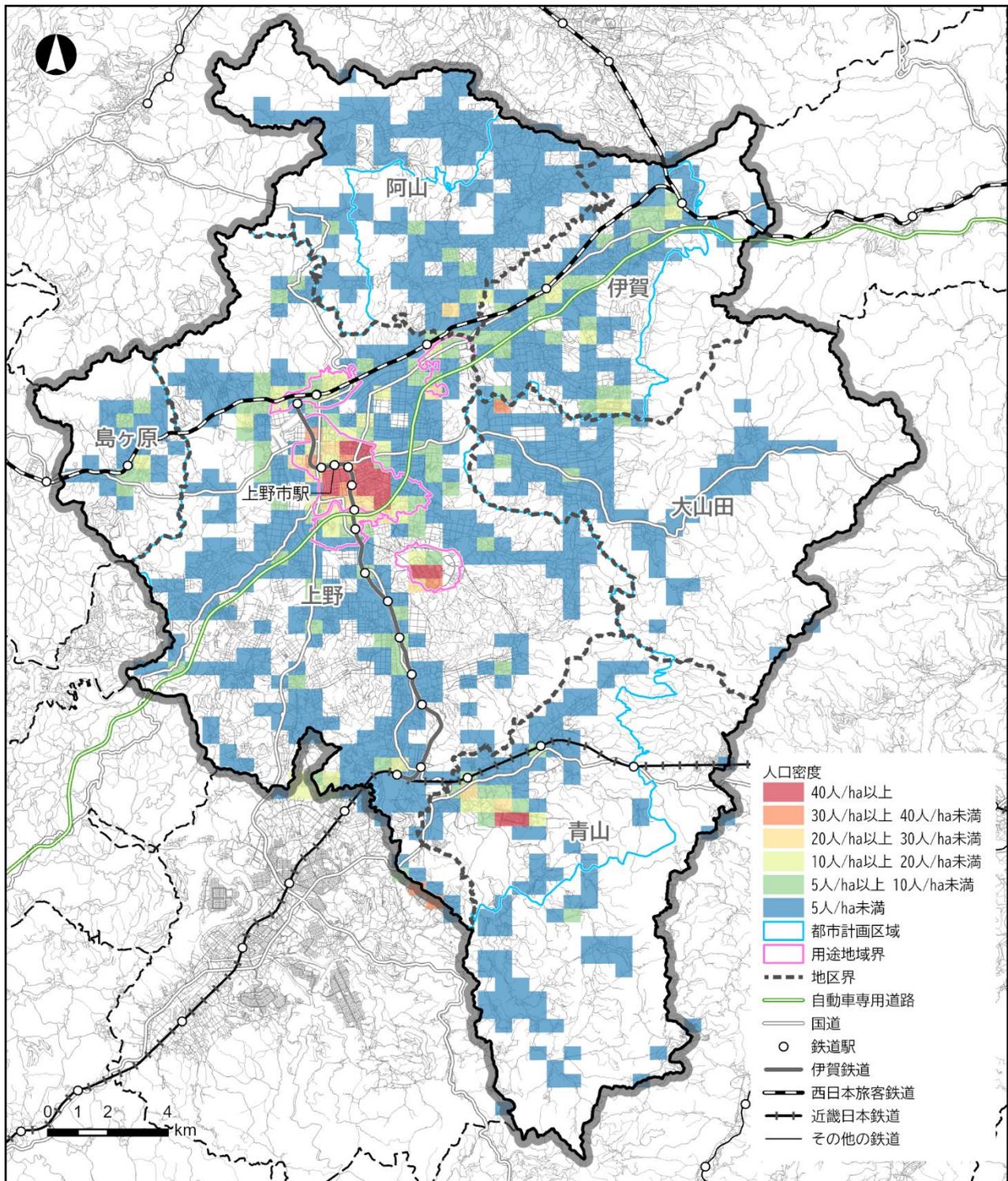
※不詳を除く

資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口」

図 3-3 3区分別人口割合の推移

(2) 人口分布

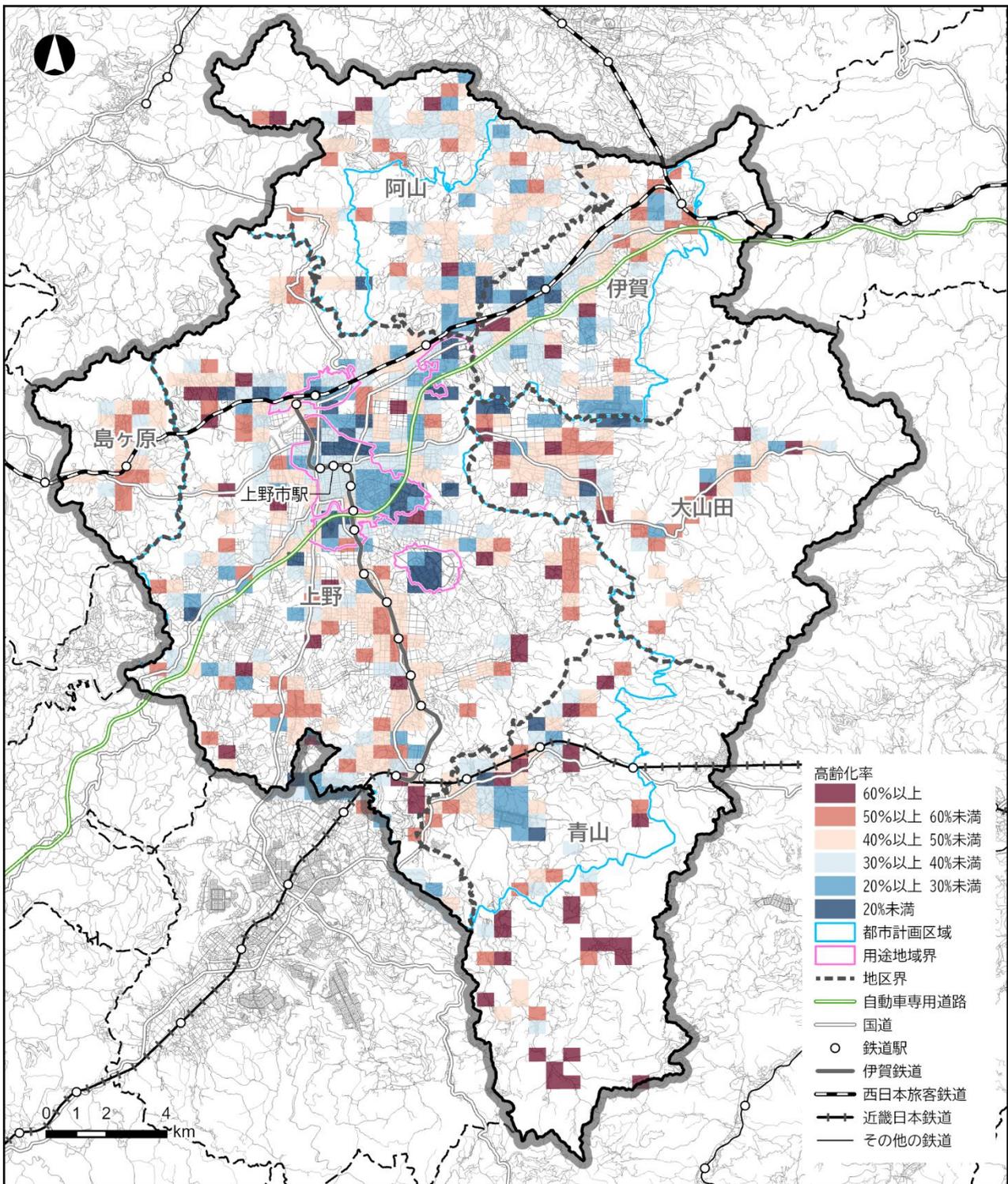
人口密度は市中心部の上野市駅周辺で高いほか、ゆめが丘や青山地区の住宅団地で高くなっています。その他の地域には、10人/ha未満の地域が面的に広く分布しています。



資料：令和2年国勢調査

図 3-4 人口密度分布（2020年・500mメッシュ）

高齢化率は市街地では概ね 40%未満ですが、市の郊外部では 60%以上の地域もみられます。。



資料：令和2年国勢調査

図 3-5 高齡化率分布 (2020年・500mメッシュ)

(3) 支所別人口

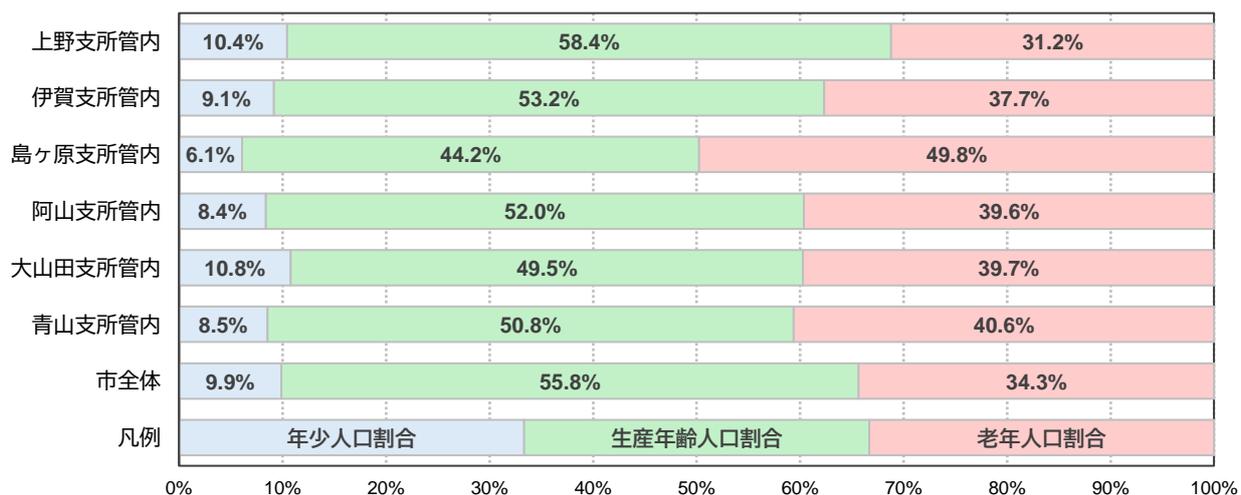
住民基本台帳における支所別の人口は、上野支所が約 53,671 人で全体の 64%を占めます。最も少ない島ヶ原支所では 1,831 人となっています。

表 3.2 支所別・年齢3区分別人口

	総人口 (人)	年少人口 (人)	生産年齢人口 (人)	老年人口 (人)	世帯数 (世帯)
上野支所	53,671	5,591	31,335	16,745	26,782
伊賀支所	8,849	809	4,705	3,335	4,183
島ヶ原支所	1,831	111	809	911	806
阿山支所	6,110	511	3,177	2,422	2,700
大山田支所	4,628	498	2,292	1,838	2,042
青山支所	8,523	726	4,333	3,464	4,071
計	83,612	8,246	46,651	28,715	40,584

(令和 7 年 9 月末時点)

資料：住民基本台帳



(令和 7 年 9 月末時点)

資料：住民基本台帳

図 3-6 年齢3区分別の支所別人口の割合

伊賀市は、2004（平成16）年11月1日に6市町村が合併し誕生しましたが、合併前の旧市町村となる6地区（上野地区・伊賀地区・島ヶ原地区・阿山地区・大山田地区・青山地区）は、以下のとおりとなっています。人口が多い上野地区は、伊賀市の中心部に位置しており、他地区と比較すると、幹線道路や鉄道が多く通っており、伊賀鉄道は、上野地区内で完結しています。

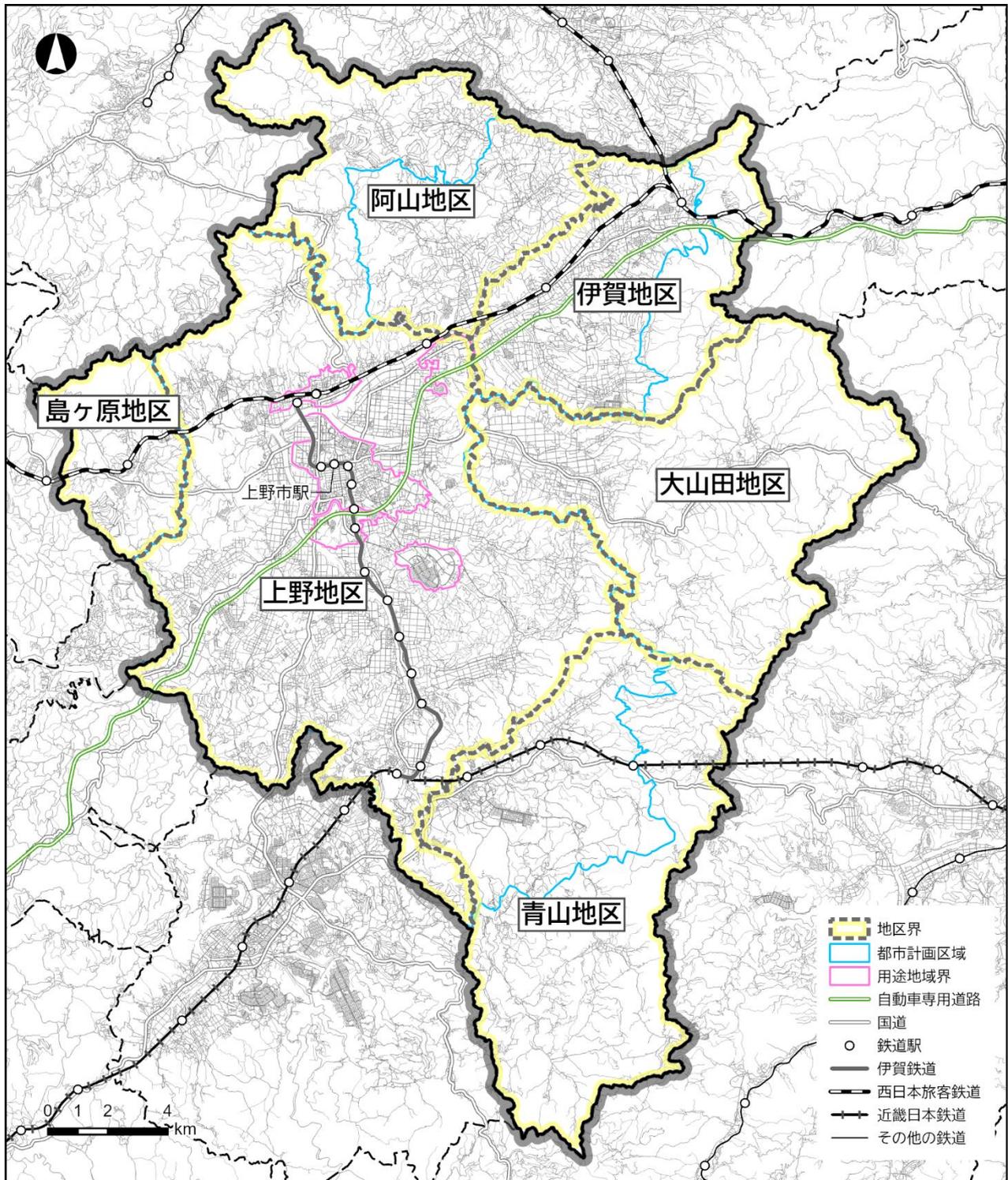
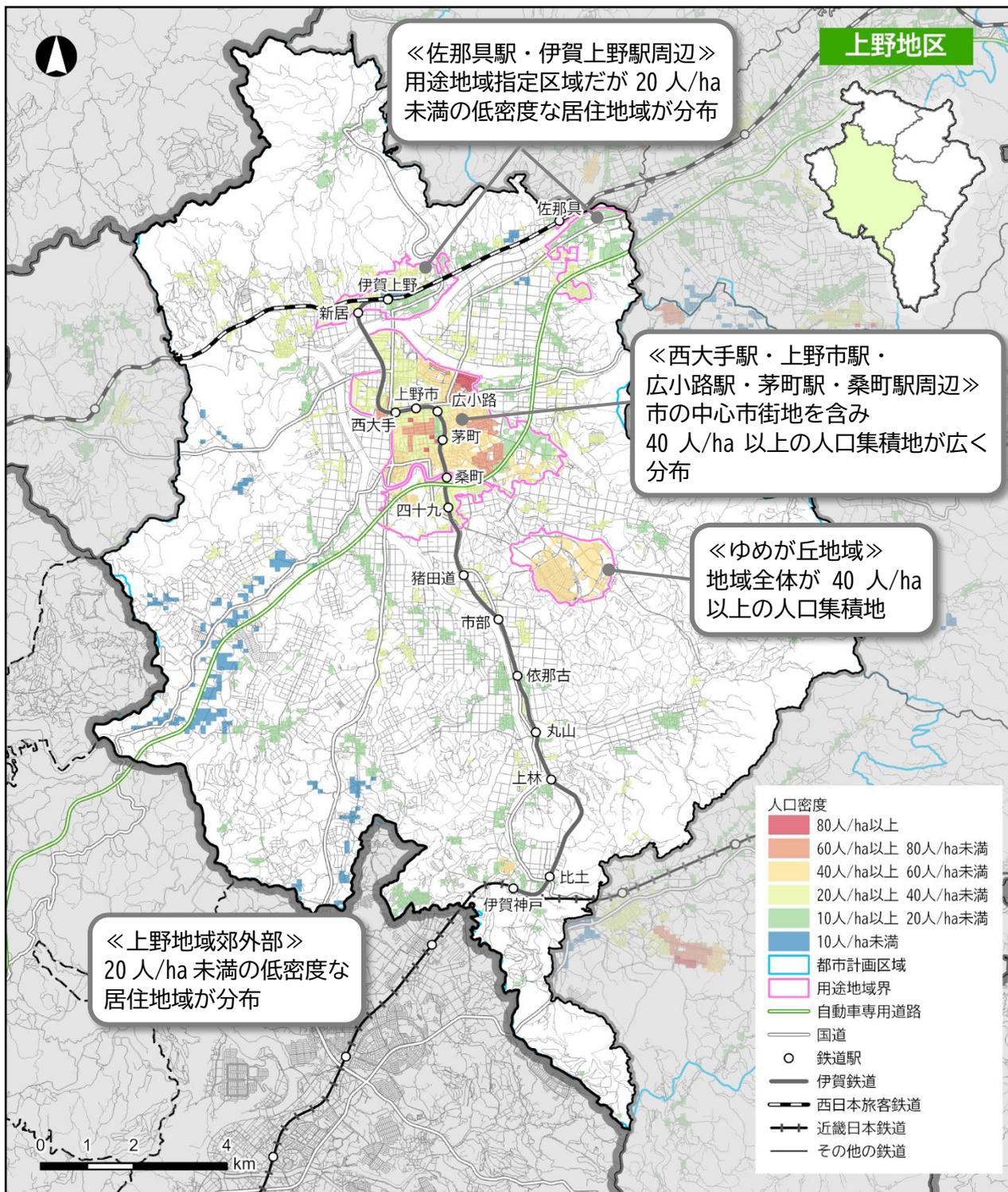
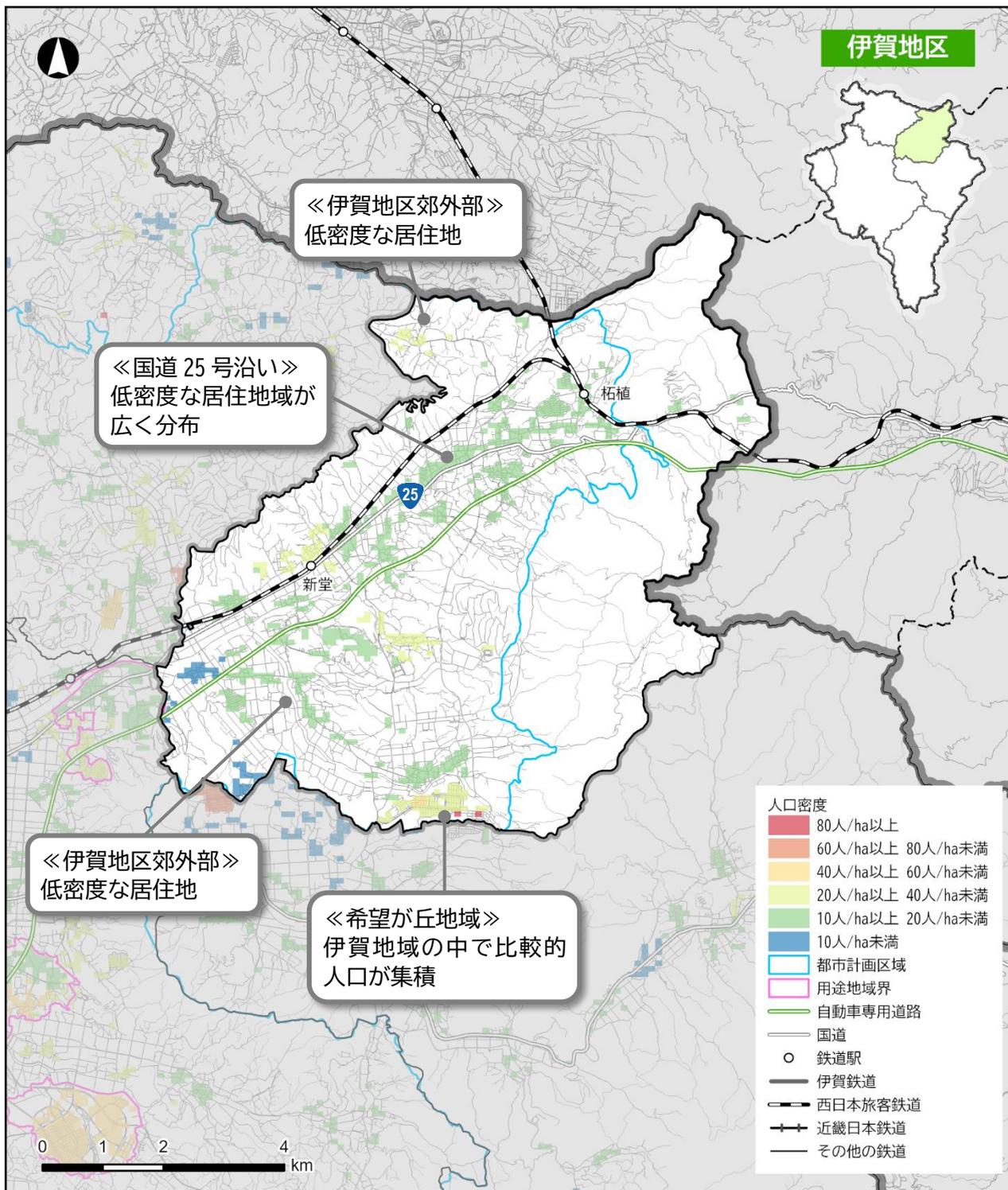


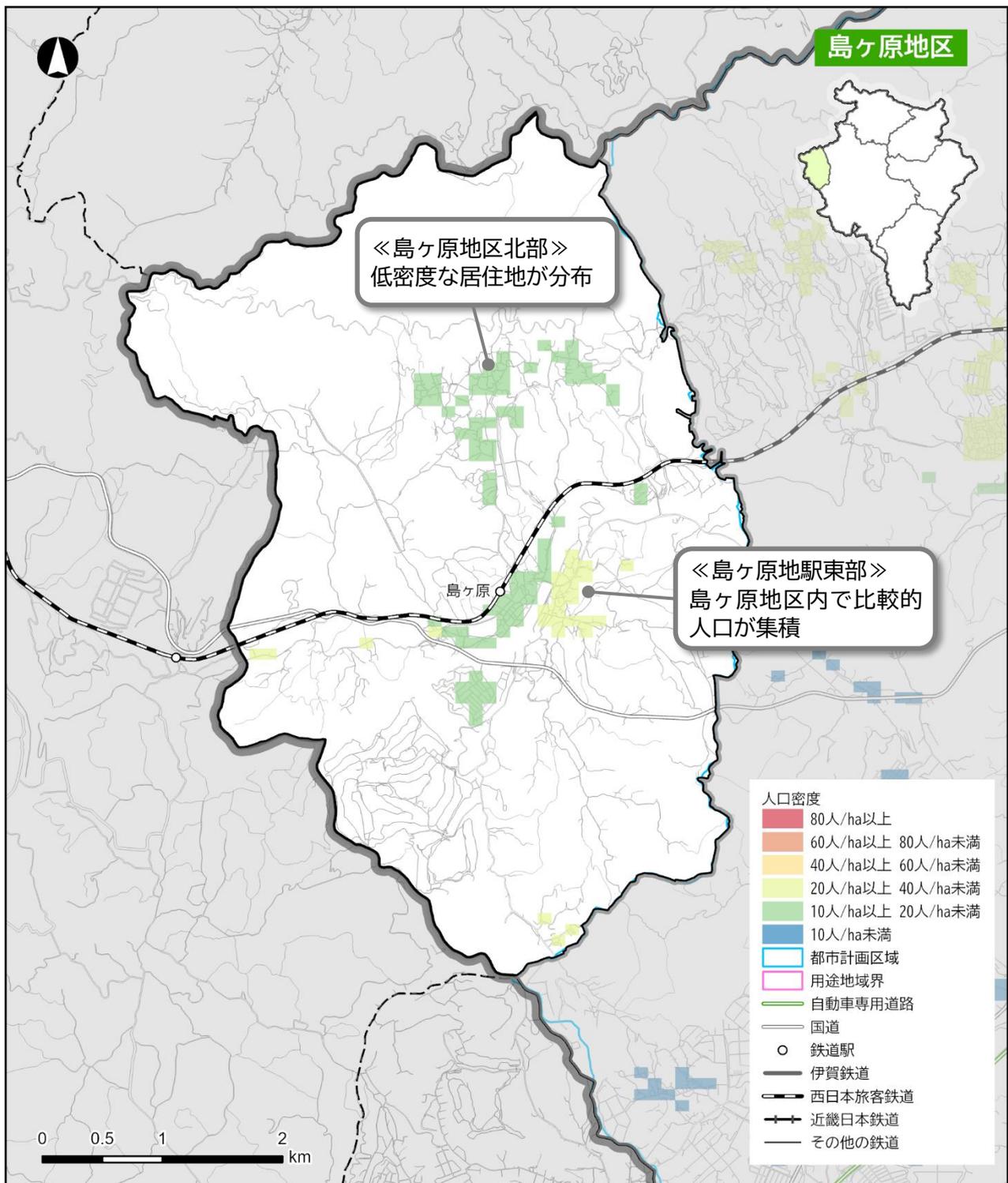
図 3-7 地区区分



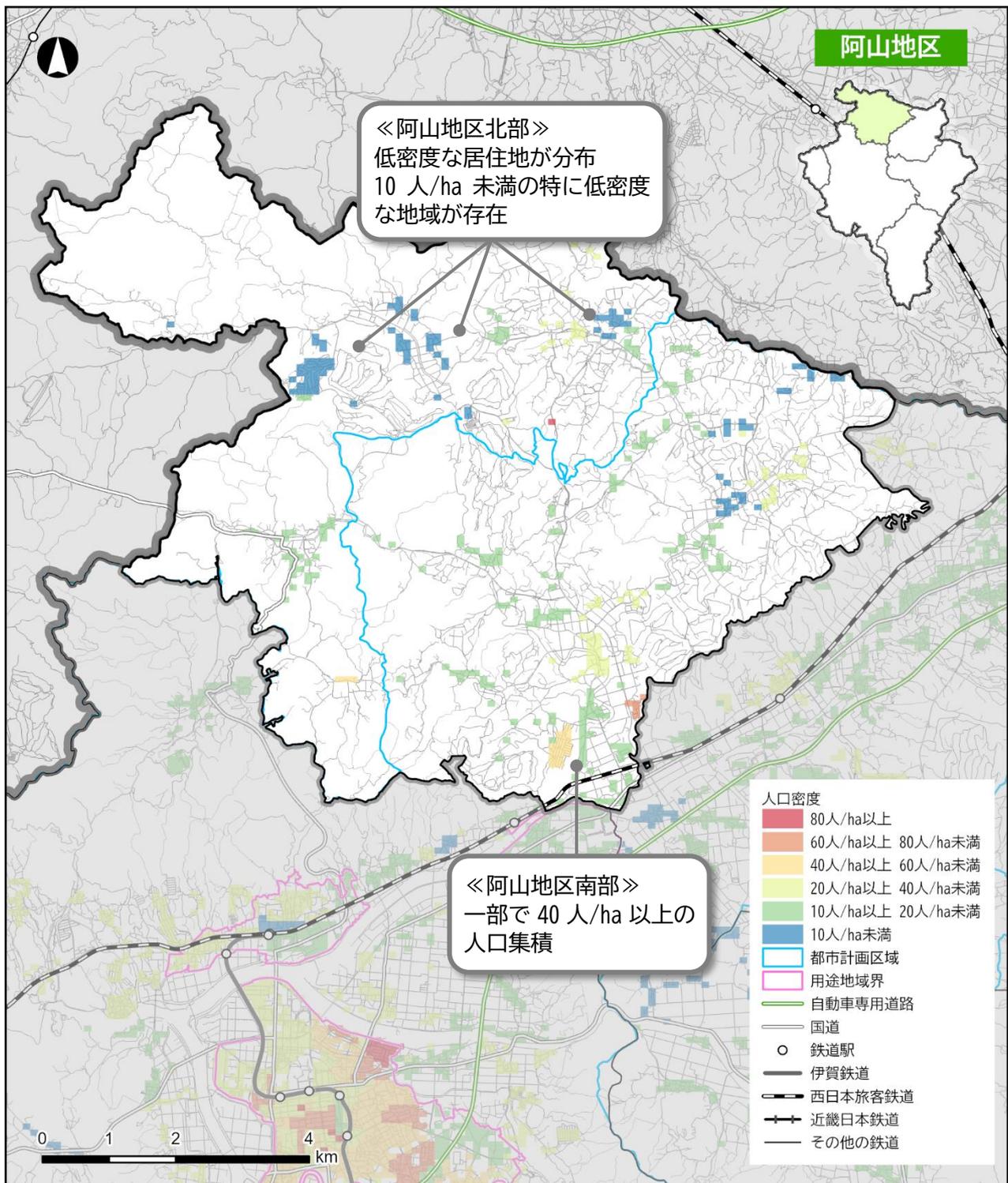
資料：令和2年国勢調査 国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」を用いて作成
 図 3-8 人口密度分布（2020年・100mメッシュ・上野地区）



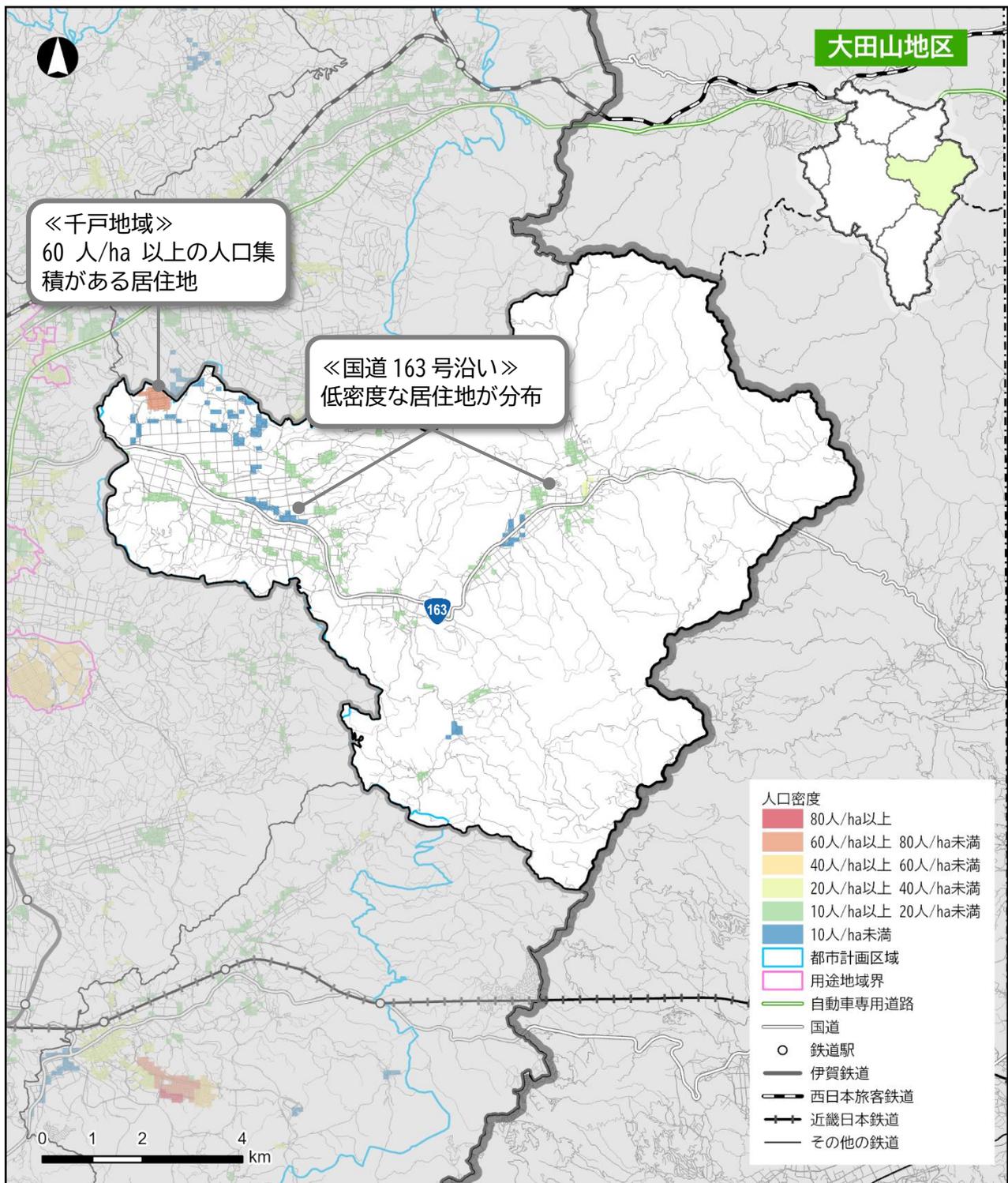
資料：令和2年国勢調査 国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」を用いて作成
 図 3-9 人口密度分布（2020年・100mメッシュ・伊賀地区）



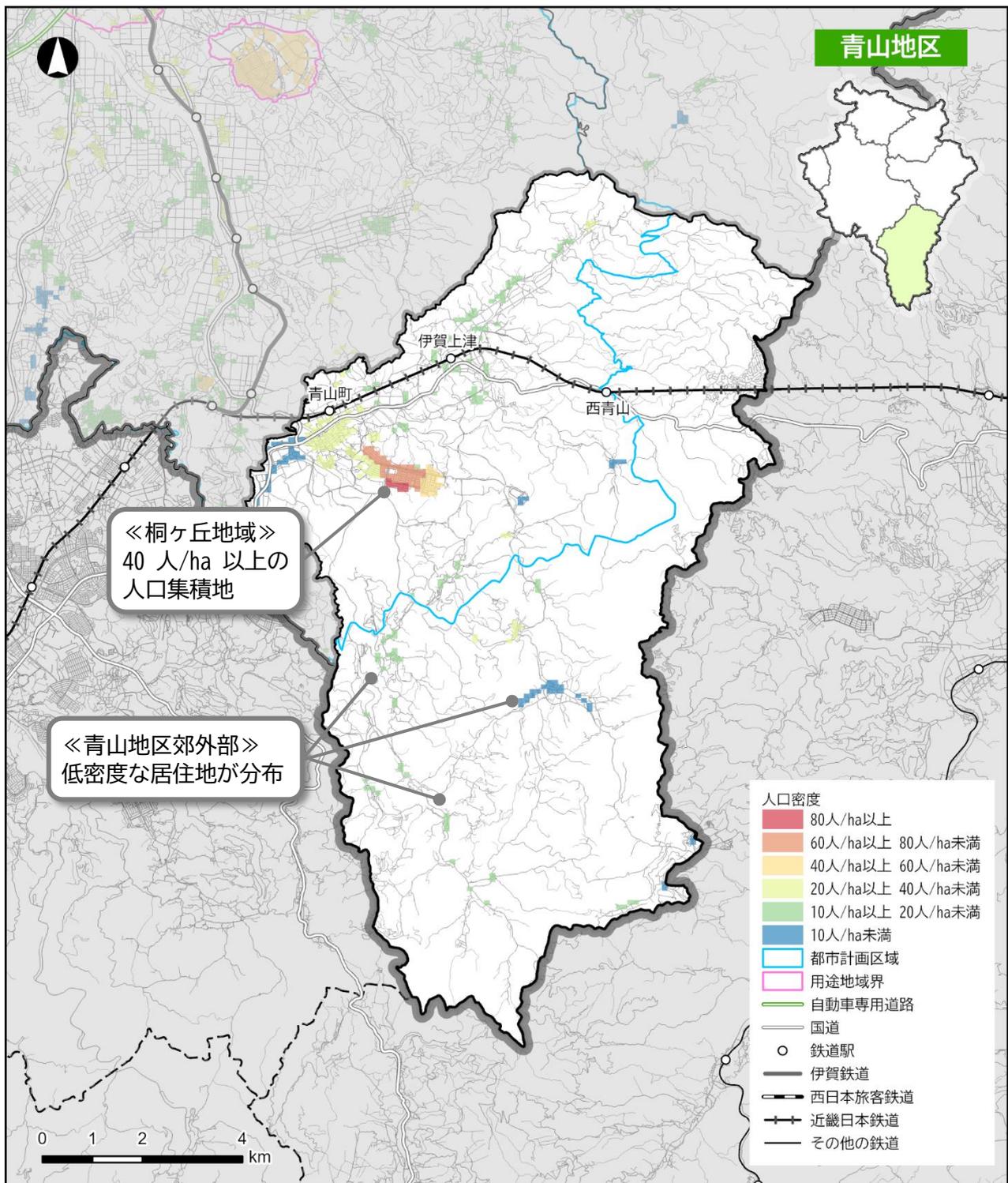
資料：令和2年国勢調査 国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」を用いて作成
 図 3-10 人口密度分布（2020年・100mメッシュ・島ヶ原地区）



資料：令和2年国勢調査 国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」を用いて作成
 図 3-11 人口密度分布（2020年・100mメッシュ・阿山地区）



資料：令和2年国勢調査 国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」を用いて作成
 図 3-12 人口密度分布（2020年・100mメッシュ・大山田地区）

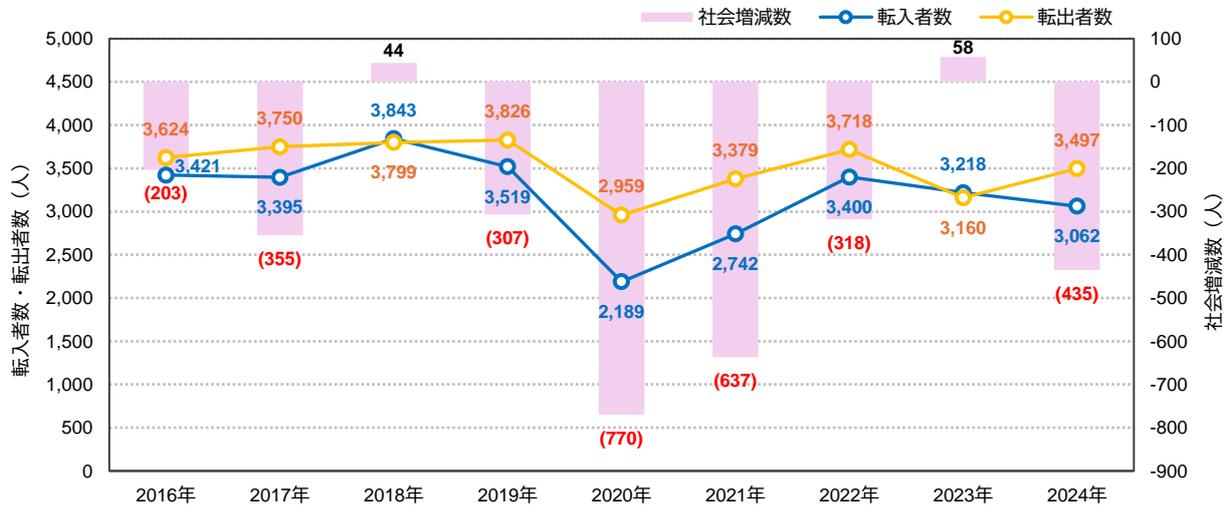


資料：令和2年国勢調査 国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」を用いて作成
 図 3-13 人口密度分布（2020年・100mメッシュ・青山地区）

(4) 社会増減数¹

1) 社会増減数の推移

転入者は新型コロナウイルス感染症の流行により移動が制限された 2020（R2）年には、年間約 2,200 人まで減少しましたが、2022（令和 4）年以降は 3,000 人代前半で推移しています。転出者も同様に、2020（R2）年に減少していますが、その他は、年間 3,200～3,900 人となっています。2018（平成 30）年および 2023（令和 5）年はわずかに社会増となりましたが、その他の年では、年間 200～800 人程度の社会減となっています。

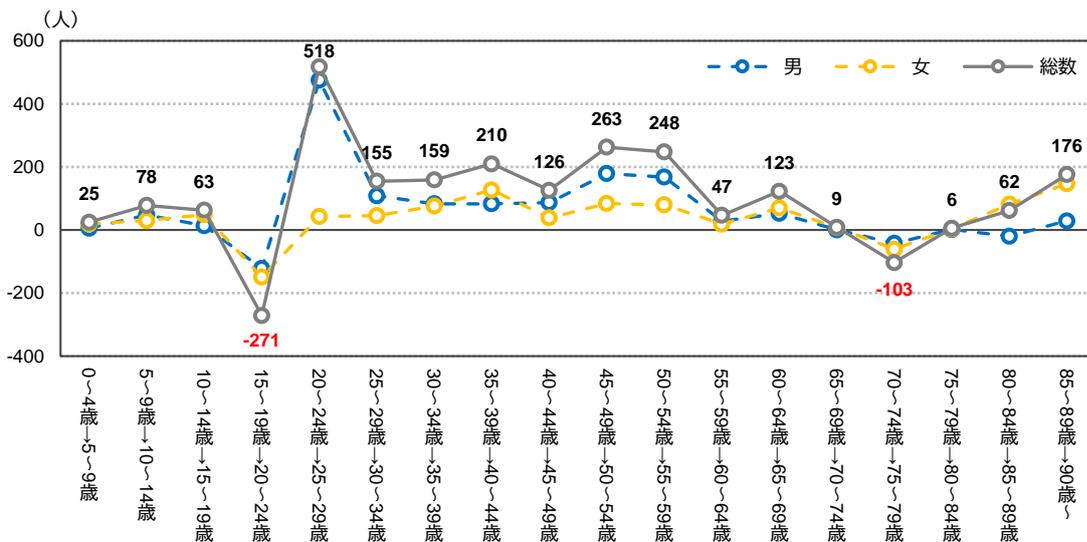


資料：三重県月別人口調査結果

図 3-14 社会増減数の推移

(5) 年齢別人口移動²

2015（平成 27）年から 2020（令和 2）年にかけての年齢別の人口移動数では、転出は「15～19 歳→20～24 歳」で最も多く、進学・就職等を機にしたものと考えられます。転入は「20～24 歳→25～29 歳」が最も多く、就職や結婚等を機とした移住が考えられます。



資料：内閣官房・経済産業省 RESAS（国勢調査および都道府県別生命表に基づき作成）

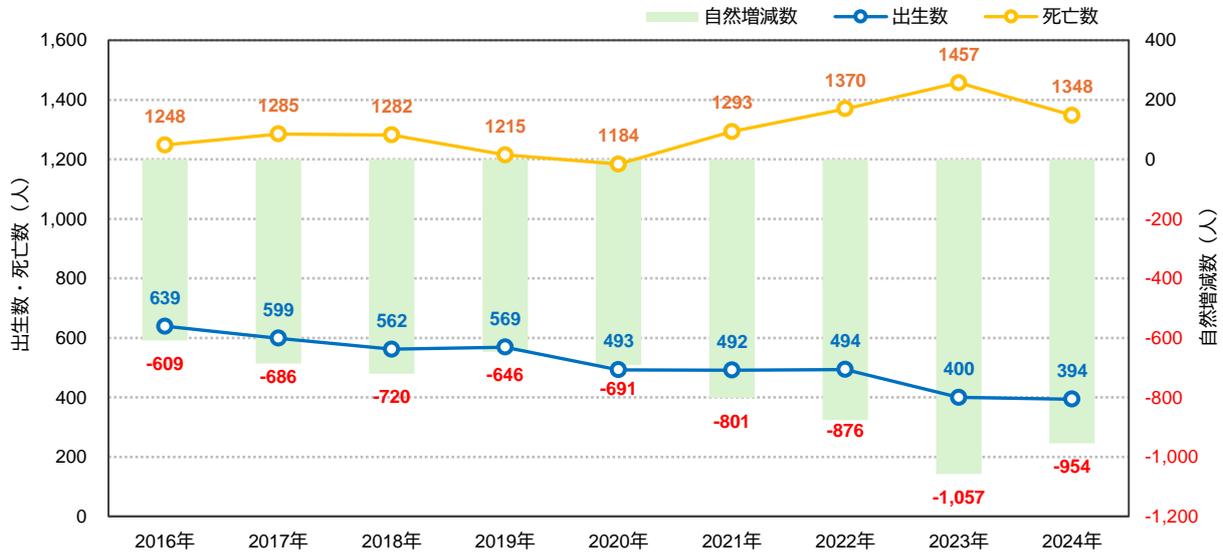
図 3-15 2015 年から 2020 年の年齢別移動人口

1 社会増減数は、他地域からの転入者数と転出者数による人口の増減数

2 人口移動は、国勢調査を基本とした居住地の移動状況を示す、2015 年の居住地と 2020 年の居住地の比較により、伊賀市からの転出・転入による増減数を示す

(6) 自然増減数³

本市の出生数は減少が進んでいる一方で、死亡数は増加傾向にあります。そのため、自然減少が進んでおり、2016（平成 28）年は約 600 人の減少でしたが、2024（令和 6）年は 1,000 人近い減少となりました。

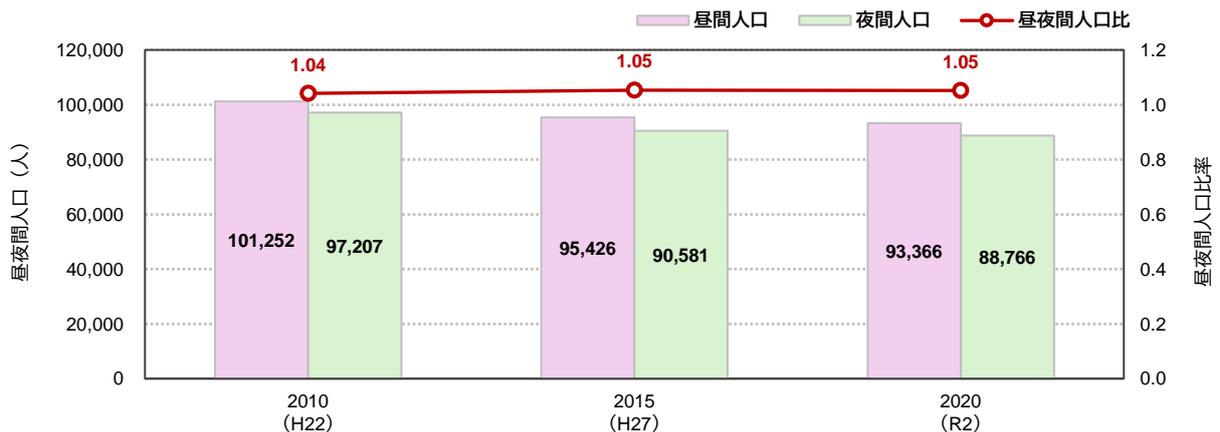


資料：三重県月別人口調査結果

図 3-16 自然増減数の推移

(7) 昼夜間人口⁴

本市の昼間人口、夜間人口ともに減少傾向にあります。昼夜間人口比率⁵は 2020（令和 2）年時点で 1.05 とわずかに昼間人口が上回っています。



資料：国勢調査

図 3-17 昼夜間人口の推移

3 自然増減数は、出生数と死亡数による人口の増減数

4 昼間人口＝本市の人口(夜間人口)－本市からの流出人口(本市から他市町村への通勤・通学者数)
 ＋本市への流入人口(他市町村から本市への通勤・通学者数)

5 昼夜間人口比率＝(昼間人口/夜間人口)